

会報

通常総会議事報告

社団法人 溶接学会 第77回通常総会の議事を下記のとおり報告いたします。

日時 平成21年4月23日(木)10:00～11:30

場所 アルカディアホケ谷(私学会館)5階「大雪」 〒102-0073東京都千代田区九段北4丁目2番25号

平成20年度事業報告及び会務報告

(平成20年3月1日 至平成21年2月28日)

平成20年度において本会は次の事業を行った。

I 事業報告

1. 全国大会 (定款第3条1項)

1.1 春季全国大会

平成20年4月8日～10日 ハイアット・リージェンシー・オオサカ (大阪)

研究発表講演 (113件), 特別講演 (1件), シンポジウム (講演7件), フォーラム (講演8件), 若手会員のためのイブニングフォーラム (講演7件)

参加者 延約1,000名

1.2 秋季全国大会

平成20年9月10日～13日 北九州国際会議場 (北九州)

研究発表講演 (210件), 特別講演 (1件), 論文賞受賞講演 (2件), フォーラム (講演8件), 技術セッション (講演4件), ワークショップ (講演2件), 若手会員のためのイブニングフォーラム (ポスター発表44件)

参加者 延約1,500名

1.3 第8回国際シンポジウム (8WS) 「ものづくり新時代に向けた溶接・接合技術のイノベーション」

平成20年11月16日(日)～18日(火) 国立京都国際会館

参加者 702名 (22ヵ国, 外国141名, 国内561名) (発表論文311件: 一般セッション124件, 特別セッション73件, ポスターセッション114件), (基調講演10件)

2. 講習会 (定款第3条1項)

2.1 平成20年度溶接技術基礎講座 (第36回)

会 期 平成20年7月4日, 5日

会 場 科学技術館 (東京)

受講者 55名

2.2 平成20年度溶接工学夏季大学 (第56回) 「溶接・接合工学の基礎と応用」

会 期 平成20年7月15～16日

会 場 大阪大学接合科学研究所 荒田記念館

受講者 67名

3. 刊 行 (定款第3条3項)

3.1 溶接学会誌 77巻2号～78巻1号 (8冊)

主な内容 資料等68篇, データシート7件, 展望1篇

3.2 溶接学会論文集 27巻2号～28巻1号 (4冊) (WEB)

主な内容 研究論文42篇

3.3 全国大会講演概要集 第82集および第83集 (2冊)

3.4 平成20年度溶接工学夏季大学教材「溶接・接合工学の基礎と応用」

3.5 Mate 2009 15th Symposium on "Microjoining and Assembly Technology in Electronics" 論文集 (マイクロ接合研究委員会)

3.6 薄鋼板及びアルミニウム合金版の抵抗スポット溶接-抵抗スポット溶接現象とその応用- (軽構造接合加工研究委員会)

3.7 DVD 溶接法研究委員会資料- 第1回～第200回 (1960年～2007年) (溶接法研究委員会)

3.8 第8回国際シンポジウム論文概要集

4. 研究活動 (定款第3条1項)

4.1 研究推進部会 (小溝裕一 部会長)

2回の会合を開催し, 各研究委員会の活動状況の把握及び調整並びに特別研究会の活性化を図るとともに, アドホック研究会1件が新設され, 特別研究会3件が継続活動, 研究会及びミニ研究会等の設置についての起案・規模策定及び理事会への答申等を検討した。学会活動の情報化に伴う研究委員会HPの拡充, 研究委員会設置形態の見直し, 国際対応, ナショプロ化対応等について検討した。

(1) 春季全国大会においてフォーラム (高エネルギービーム加工研究委員会) を開催した。 (前掲)

(2) 秋季全国大会においてフォーラム (軽構造接合加工研究委員会) を開催した。 (前掲)

(3) 特別研究会「建築鉄骨における溶融亜鉛めっき割れに関する研究」 (中込忠男 主査)

研究会は, 委員の異動などがあり予定通り開催できなかった。小型試験体を用いてめっき処理方法のいくつかのパターン及び端部の拘束試験体について実験を行った。実大鋼管実験と同様, 角部内面のめっき処理, 端部拘束がめっき割れ防止に有効であることが再度確認できた。

角部内側のように一度圧縮力を受けた後にめっき熱による引張り力をうけた場合, 割れが入ると考えられる。予歪を圧縮あるいは引張りとし, これにめっき熱による外力を組合わせた実験を計画中である。

(4) 特別研究会「TIG溶接並みの高品質溶接を可能とする次世代MIG溶接プロセスの開発・実用化」 (平岡和雄, 平田好則 両主査)

次世代MIG溶接プロセスの開発におけるターゲットの1つとして, 新規NEDOプロジェクトの獲得を上げてきた。その結果, 鉄鋼材料のNEDOプロジェクト (H19-H23) として結実し, 1つの目的を達成した。H20年度では, 12月19日に研究会

を開催し、実用化を睨んでの現技術レベルの確認と今後の波及マップを検討し、さらに H21 年度に当該シンポジウムの開催を検討した。本研究会は、H20 年度にて終了し、その成果と将来展開を纏めたシンポジウムを H21 年 11 月開催を予定することとした。

(5) 特別研究会「溶接・接合プロセスのビジュアル化最前線」
(田中学主査)

特別研究会委員より、最新の計測・計算技術によって得られる溶接・接合に関わる動画、動画解説図および解説文をのべ 98 件ご提供いただいた。カテゴリ分類、動画間の比較、解説内容のわかりやすさ等を考慮して編集作業を行い、委員への修正依頼を作成した。また、「溶接・接合プロセスのビジュアル化最前線」セミナーを平成 21 年 10 月頃に開催する予定にした。

(6) アドホック研究会「ファイバーレーザ SMART 加工研究会」
(塚本雅裕 主査)

高ビーム品質レーザの一つであるファイバーレーザを用いた加工を中心にレーザ加工の現状を調査し、これからのレーザ加工（レーザ SMART 加工）について調査を進めるとともにレーザ SMART 加工に関するシンポジウム「先進ファイバー・固体レーザシステムによる次世代ものづくりへの展開」を開催した。

(7) アドホック研究会「FSW の品質保証に関する研究会」
(安井利明主査)

本研究会は、現在 10 名の委員と顧問 4 名で構成し、昨年 12 月から活動を開始した。

これまでに 3 回の研究会を実施し、FSW の品質保証に関する現状報告と今後の研究課題の討議を行った。

(8) 溶接学会記念基金助成活動（参照会務 5.2 項）
「若手溶接技術者・研究者のグローバルネットワークの形成」委員会（川上博士主査）

平成 20 年度は、平成 20 年 8 月 24 日～27 日に開催された 6th International Materials Technology Conference & Exhibition に研究発表者 3 名の派遣した。また、平成 20 年 11 月 16 日に開催された AWF（アジア溶接連盟）シンポジウムの開催協力を行った。

4.2 溶接構造研究委員会（有持和茂委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第178回	20.3.18	東京	36	研究報告 5件(日本船舶海洋工学会構造・材料研究委員会材料・溶接部会との合同委員会)
第179回	20.7.9	大阪	18	研究報告 4件
第180回	20.10.15	北海道	22	研究報告 3件 見学会
第181回	20.12.17	大阪	60	研究報告 4件(日本建築学会近畿支部鉄骨構造部会と合同開催)

4.3 溶接法研究委員会（中田一博委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第202回	20.5.9	東京	48	研究報告 6件
第203回	20.8.6～7	大阪	71.51	研究報告 10件
第204回	20.10.21～22	兵庫	45.37	研究報告 7件 見学会
第205回	21.2.3～4	東京	55.49	研究報告 12件

4.4 溶接冶金研究委員会（篠崎賢二委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第192回	20.5.14	東京	34	研究報告 6件
第193回	20.8.26	大阪	29	研究報告 6件
第194回	20.10.30～31	長崎	21.22	研究報告 4件 見学会
第195回	21.2.3～4	東京	55.49	研究報告 12件

4.5 溶接疲労強度研究委員会（森 猛委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第217回	20.4.15	東京	28	研究報告 5件
第218回	20.6.24	東京	26	研究報告 6件
第219回	20.11.26	茨城	15	見学会
第220回	21.1.13	東京	21	研究報告 5件

4.6 高エネルギービーム加工研究委員会（阿部信行委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第58回	20.5.13	千葉	24	研究報告 4件
第59回	20.12.2	愛知	25	研究報告 3件 見学会
第60回	21.3.3	東京	81	研究報告 11件
シンポジウム				「ファイバーレーザと最新固体レーザシステムによる次世代加工への展開」

4.7 軽構造接合加工研究委員会（里中 忍委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第81回	20.6.16	東京	41	研究報告 6件
第82回	20.9.18	兵庫	31	研究報告 3件 見学会
第83回	20.11.27	大阪	18	研究報告 6件
第84回	21.1.21	東京	24	研究報告 6件

4.8 溶接アーク物理研究委員会（田中 学委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第170回	20.5.28	東京	28	研究報告 5件
第171回	20.8.6～7	大阪	71.51	研究報告 10件
第172回	20.11.6	東京	22	研究報告 5件
第173回	21.1.27	東京	22	研究報告 5件

4.9 マイクロ接合研究委員会（日置 進委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第87回	20.5.30	東京	106	研究報告 5件 基調講演 1件
第45回分科会	20.7.11	東京	72	研究報告 7件
第88回	20.9.5	東京	72	研究報告 6件
第46回分科会	20.10.24	東京	83	研究報告 5件 招待講演 1件
シンポジウム	20.10.28	東京	145	電子システムインテグレーションにおける樹脂実装の現状と課題
第86回	20.12.7	東京	60	研究報告 7件
シンポジウム	21.1.29-30	横浜	429	Mate2009シンポジウム

4.10 界面接合研究委員会（鈴木曉男委員長）

会合名	開催年月日	開催地	出席者数	内容
第78回	20.5.16	東京	22	研究報告 6件
第79回	20.9.26	東京	28	研究報告 6件
第80回	21.1.23	東京	20	研究報告 5件

5. 国内活動（定款 3 条項 4）

5.1 日本溶接会議（JIW）の活動援助を行った。

5.2 第 2 回溶接学術連合講演会を、日本溶接協会並びに産報出版（株）と共同開催開催し、平成 21 年度第 3 回開催を準備した。

5.3 共催、協賛、その他（承認順）

日本学術会議材料工学研究連絡委員会、同土木工学・建築学委員会、同機械工学委員会、材料戦略委員会、金属連合協議会、生産学術連合会、電子情報技術産業協会、日本技術者教育認定機構、日本工学会、日本溶接協会、日本非破壊検査協会、その他関係学協会の活動に協力した。

- (1) 協賛：日本高圧力技術協会「セミナー、第 7 回圧力容器関連規格の国内外動向」(07.03.26)
- (2) 協賛：日本高圧力技術協会「HPI 技術セミナー、破壊事故、失敗の活用」(06.26-27)
- (3) 協賛：腐食防食協会「第 161 回腐食防食シンポジウム、塩付着法を用いた住宅内環境における表面処理鋼板の耐食性試験法検討の現状」(03.12)
- (4) 協賛：腐食防食協会「第 162 回腐食防食シンポジウム、物理方式水処理装置の評価試験法（腐食抑制）」(03.27)
- (5) 協賛：日本保全学会「第 5 回学術講演会」(07.10-12)
- (6) 協賛：日本材料学会「第 7 回及び第 8 回初心者のための疲労設計講習会」(08.26-27, 11.13-14)

<p>(7) 協賛：日本材料学会「腐食防食専門委員会第262回例会，我が国の発生・進展をどう捉えるか」(03.12)</p> <p>(8) 協賛：日本自動車技術会「シンポジウム，車体構造成形技術の未来像－設計効率化と環境保全の視点から」(07.24)</p> <p>(9) 協賛：日本自動車技術会「第6回全日本学生フォーミュラ大会・ものづくり・エコデザインコンペティション」(9.10-13)</p> <p>(10) 協賛：日本塑性加工学会「第59回塑性加工連合講演会」(11.07-09)</p> <p>(11) 協賛：日本MRS (Materials Research Society of Japan)「IUMRS-ICA 2008」(12.09-13)</p> <p>(12) 協賛：日本鉄鋼協会「第60回白石記念講座，社会基盤・産業基盤の安心・安全を支えるリスクベースインスペクション/リスクベースメンテナンス」(10.21)</p> <p>(13) 日本鉄鋼協会「第196・197回西山記念講座，鉄鋼原料の動向と製鉄技術の新展開」(09.19, 09.30)</p> <p>(14) 協賛：軽金属学会「第84回シンポジウム，アルミニウムと鉄鋼の接合技術，基礎から応用まで」(07.04)</p> <p>(15) 共催：エコデザイン学会連合「EcoDesign 2008」(12.11-12)</p> <p>(16) 協賛：レーザ加工学会「第5回レーザ先端材料加工国際会議」(06.29-07.02)</p> <p>(17) 後援：日本溶接協会「第41回原子力国内シンポジウム，原子力の国際的な動き-国際化の現状と展望」(06.17)</p> <p>(18) 後援：神奈川科学技術アカデミー「教育講座，次世代研磨加工技術，塑性加工基礎技術」(07.15-31.9月7日間)</p> <p>(19) 協賛：日本材料学会「第38回初心者のための有限要素法講習会」(07.31-08.01, 08.21-22)</p> <p>(20) 協賛：日本材料学会「第23回信頼性シンポジウム，信頼性工学の新展開，環境と安全を支える新技術」(12.4-5)</p> <p>(21) 協賛：日本材料学会「第9回材料の衝撃問題シンポジウム」(12.18-19)</p> <p>(22) 協賛：日本材料学会「第263回例会腐食部門委員会」(07.29)</p> <p>(23) 協賛：製造科学技術センター IMS センター「知的生産システムシンポジウム」(07.11)</p> <p>(24) 協賛：日本機械学会「機械の日記念行事」(08.1-07)</p> <p>(25) 協賛：日本高圧力技術協会「セミナー，第7回圧力機器及び配管におけるガasketフランジ締結体のシーリングテクノロジー」(08.19-20)</p> <p>(26) 協賛：日本自動車技術会「シンポジウム，車体構造成形技術の未来像－設計効率化と環境保全の視点から」(07.24)</p> <p>(27) 協賛：日本自動車技術会「第6回全日本学生フォーミュラ大会・ものづくり・エコデザインコンペティション」(9.10-13)</p> <p>(28) 協賛：日本塑性加工学会「第59回塑性加工連合講演会」(11.07-09)</p> <p>(29) 協賛：日本MRS (Materials Research Society of Japan)「IUMRS-ICA 2008」(12.09-13)</p> <p>(30) 協賛：日本鉄鋼協会「第60回白石記念講座，社会基盤・産業基盤の安心・安全を支えるリスクベースインスペクション/リスクベースメンテナンス」(10.21)</p> <p>(31) 日本鉄鋼協会「第196・197回西山記念講座，鉄鋼原料の動向と製鉄技術の新展開」(09.19, 09.30)</p> <p>(32) 協賛：軽金属学会「第84回シンポジウム，アルミニウムと鉄鋼の接合技術，基礎から応用まで」(07.04)</p> <p>(33) 共催：エコデザイン学会連合「EcoDesign 2008」(12.11-12)</p> <p>(34) 協賛：レーザ加工学会「第5回レーザ先端材料加工国際会議」(06.29-07.02)</p> <p>(35) 後援：日本溶接協会「第41回原子力国内シンポジウム，原子力の国際的な動き-国際化の現状と展望」(06.17)</p> <p>(36) 後援：神奈川科学技術アカデミー「教育講座，次世代研磨加工技術，塑性加工基礎技術」(07.15-31.9月7日間)</p> <p>(37) 協賛：日本材料学会「第38回初心者のための有限要素法講習会」(07.31-08.01, 08.21-22)</p>	<p>(38) 協賛：日本材料学会「第23回信頼性シンポジウム，信頼性工学の新展開，環境と安全を支える新技術」(12.4-5)</p> <p>(39) 協賛：日本材料学会「第9回材料の衝撃問題シンポジウム」(12.18-19)</p> <p>(40) 協賛：日本材料学会「第263回例会腐食部門委員会」(07.29)</p> <p>(41) 協賛：製造科学技術センター IMS センター「知的生産システムシンポジウム」(07.11)</p> <p>(42) 協賛：日本機械学会「機械の日記念行事」(08.1-07)</p> <p>(43) 協賛：日本高圧力技術協会「セミナー，第7回圧力機器及び配管におけるガasketフランジ締結体のシーリングテクノロジー」(08.19-20)</p> <p>(44) 協賛：腐食防食協会「第46回技術セミナー，腐食を理解するための電気化学入門」(07.23)</p> <p>(45) 協賛：腐食防食協会「第47回技術セミナー，極値統計解析による材料の腐食寿命予測」(09.03)</p> <p>(46) 協賛：腐食防食協会「第55回材料と環境討論会」(09.17-19)</p> <p>(47) 協賛：腐食防食協会「第35回技術コロージョンセミナー，電気化学測定法を習得するための集中的学習」(08.27-29)</p> <p>(48) 協賛：腐食防食協会「第163回シンポジウム，事例情報等の設備管理への活用」(10.01)</p> <p>(49) 協賛：日本鋼構造協会「鋼構造シンポジウム 2008」(11.21-21)</p> <p>(50) 協賛：日本機械学会「第18回設計工学・システム部門講演会」(09.25-27)</p> <p>(51) 協賛：日本高圧力協会「HPI 技術セミナー，第6回自己から学リスクマネジメント」(10.08-09)</p> <p>(52) 協賛：日本高圧力協会「HPI 技術セミナー，第18回圧力設備の材料，設計，施工，維持管理」(11.20-21)</p> <p>(53) 協賛：日本高圧力協会「HPI 技術セミナー，世界のエネルギー・エコロジー動向と圧力設備の最新技術対応」(12.11-12)</p> <p>(54) 後援：日本溶接協会「熱切断作業の品質と安全講習会，ガス，プラズマ，レーザ切断の勘所」(08.29)</p> <p>(55) 後援：日本溶接協会「ステンレス鋼溶接施工におけるトラブル事例とその原因・対策」(09.18)</p> <p>(56) 協賛：エレクトロ実装学会「第18回マイクロエレクトロニクスシンポジウム (MES2008)」(09.18)</p> <p>(57) 協賛：日本熱電学会「創立5周年記念熱電講習会，熱変換の基礎と応用」(08.20)</p> <p>(58) 後援：製造科学技術センター「見えてきた，Next ものづくり技術～ものづくり技術戦略ロードマップ検討委員会報告」(08.18)</p> <p>(59) 協賛：溶接接合工学振興会「第19回セミナー，レーザ加工技術の動向と今後の展開」(10.30)</p> <p>(60) 協賛：強化プラスチック協会「53rd FRP CON-EX2008 講習会」(11.25)</p> <p>(61) 協賛：日本材料学会「疲労と破壊の基礎と応用」(09.19)</p> <p>(62) 協賛：日本材料学会「第46回高温強度シンポジウム」(12.04-05)</p> <p>(63) 協賛：日本材料学会「若手研究者及び技術者のための高温強度講習会」(11.13-14)</p> <p>(64) 協賛：日本溶射協会「溶射技術に関する講演及び装置見学」(08.05)</p> <p>(65) 推薦候補依頼：東レ科学振興会：科学技術賞・科学技術研究助成候補推薦依頼</p> <p>(66) 協賛：「レーザ加工学会第71回レーザ加工学会講演会」(12.08-09)</p> <p>(67) 協賛：軽金属学会「アルミニウム合金の時効析出，基礎から応用まで」(11.28)</p> <p>(68) 協賛：軽金属学会「アルミニウム合金の状態図と組織」(10.03)</p> <p>(69) 後援：日本鉄筋継手協会「調査研究発表会 (大阪)」(10.21)</p> <p>(70) 協賛：日本設計工学会「講習会，環境適合設計の基礎と実践」(11.26)</p> <p>(71) 協賛：高張力鋼の水力発電への適用に関する国際会議組織委員会 (堀川浩甫)「高張力鋼の水力発電への適用に関する国際会議」(09.07.20-22)</p> <p>(72) 後援：神奈川科学アカデミー「KAST 教育講座，高信頼性を実現するマイクロソルダリング技術」(11.27-12.04)</p>
--	--

- (73) 協賛：精密工学会「代 332 講習会，最先端の研究室めぐり，産総研デジタルものづくり研究センター」(12.05)
- (74) 協賛：傾斜機能材料研究会「10th Int Symp on Multiscale, Multifunctional & Functionally Graded Materials」(09.22-25)
- (75) 協賛：鋼構造出版「'09 鉄構技術展」(09.07.22-25)
- (76) 協賛：日本検査機器工業会「総合検査機器展（JJIMA2009）」(09.04.8-10)
- (77) 協賛：高温学会「第 1 回高温・環境セミナーバイオマス資源の現状と新しいバイオマス固形燃料の開発動向」(10.06)
- (78) 協賛：日本ガスタービン学会「ガスタービンのモニタリング技術および環境対策技術の最新動向」(09.01.22-23)
- (79) 協賛：日本材料学会「放射光を用いた材料評価への取り組み」(08. 12.5)
- (80) 協賛：日本材料学会「材料・構造の複合化と機能化に関するシンポジウム」(09.03.10-11)
- (81) 協賛：日本高圧力技術協会「第 9 回エネルギー貯槽等技術基準と安全性」(09.02.05-06)
- (82) 協賛：軽金属学会「第 12 回アルミニウム合金国際会議（ICAA12）」(10.09.05-09)
- (83) 協賛：日本金属学会「ナノ構造制御した触媒・光触媒の設計・評価・応用」(09.01.20)
- (84) 後援：日本溶接協会「原子力構造機器の材料，設計，施工，検査，維持に関する講習会」(08.12.10-12)
- (85) 協賛：日本保全学会「第 6 回保全セミナー」(08.11.17)
- (86) 協賛：レーザー協会「第 32 回レーザー協会セミナー・レーザー加工 2008，使える現場の最先端レーザー技術－」(08.11.14)
- (87) 協賛：日本高圧力技術協会「第 8 回圧力容器関連規格の国内外動向」(09.02.16)
- (88) 協賛：日本アイソトープ協会「第 46 回アイソトープ・放射線研究発表会」(09.07)
- (89) 協賛：日本人間工学会「安全工学シンポジウム 2009」(09.07.09, 10)
- (90) 協賛：腐食防食協会「第 164 回腐食防食シンポジウム微生物腐食の新しい展開と防止技術」(08.12.11)
- (91) 協賛：腐食防食協会「第 165 回腐食防食シンポジウム大気腐食評価法の現状と問題点」(08.11.14)
- (92) 協賛：日本接着学会「創立 45 周年記念日本接着学会第 47 回年次大会，第 3 回アジア接着会議（ACA2009）」(09.06.07-10)
- (93) 協賛：日本溶接協会「レーザー加工の新プロセス展開と性能評価，規格化の最新トレンド」(09.02.09-10)
- (94) 協賛：日本機械学会「高品位厚膜創製プロセス－溶射・Cold Spray・Aero-Sol Deposition の基礎と将来展」(09.03.13)
- (95) 協賛：日本塑性加工学会「平成 21 年度（第 40 回）塑性加工春季講演会」(09.05.29-31)
- (96) 協賛：精密工学会「CAE と伝熱工学－伝熱解析の基礎から応用まで－」(09.01.14)
- (97) 協賛：日本高圧力技術協会「第 7 回リスクベースメンテナンスの基礎と応用」(09.03.03)
- (98) 協賛：軽金属学会「アルミニウムの切削加工技術」(09.02.06)
- (99) 協賛：計算工学講演会「第 14 回計算工学講演会」
- (100) 協賛：日本材料学会「第 14 回分子動力学シンポジウム」(09.05.22)
- (101) 協賛：endorser "12th Asia Energy Dialogue, 2009 Global Oil and Gas Pipeline Congress"(09.3.18-20, Beijing)
- (102) 後援：日本溶接協会「溶接鋼構造物の評価と施工に関する現状・展望～安全性・信頼性向上，溶接施工効率向上～第 15 回溶接構造物用鋼材に関する研究発表会」(09.03.13)
- (103) 協賛：画像センシング技術研究会「第 15 回画像センシングシンポジウム」(09.06.10-12)

5.4 金属関係及び機械系学協会連絡委員会に参加して各種連絡

を行った。

5.5 次の学協会と機関誌を交換し研究連絡，情報交換を行った。

学協会名	誌 名	学協会名	誌 名
軽金属学会	軽金属	日本建築学会	建築雑誌
軽金属溶接構造協会	軽金属溶接	〃	Journal of Asian Architectur and Building Engineering
高温学会	高温学会誌		
高圧ガス保安協会	高圧ガス	日本高圧力技術協会	圧力技術
電気学会	電気学会誌	日本鋼構造協会	JSSC
電気製鋼研究会	電気製鋼	日本接着学会	日本接着学会誌
土木学会	土木学会誌	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会誌
			KANRIN（威臨）
〃	土木学会論文集	〃	日本船舶海洋工学会論文集
日本海事協会	日本海事協会誌	日本鉄鋼協会	鉄と鋼
日本機械学会	日本機械学会誌	〃	ふえらむ
日本橋梁建設協会	虹橋	〃	ISIJ International
日本金属学会	まてりあ	日本非破壊検査協会	非破壊検査
日本溶射協会	溶射	日本溶接協会	溶接技術

6. 国際活動（定款 3 条項 4）

6.1 国際溶接学会（IIW）関連

- ① JIW の活動を支援して年間を通じ国際溶接学会（IIW）の日常活動及び年次大会（第 61 回）（オーストリア国グラーツ，7 月 6 日～12 日）に参加した。参加者は 47 カ国 610 名，日本からは 77 名（除同伴者）。
- ② IIW 地域会議（中国，天津，10 月 10 日～13 日）に日本から 6 名が参加した。

6.2 第 8 回国際シンポジウム（8WS）を平成 20 年 11 月 16 日～18 日（国立京都国際会館）開催した。

6.3 アジア溶接連盟（AWF）の活動及び総会に参加した。

京都にて 8WS 会期中総会及びセミナーが開催され，日本から各 10 名参加した。

6 名が参加した。また，各開催国の要請により，それぞれ日本・アジア若手セミナーが行われた。（参照会務 4.2 項）

6.4 次のとおり機関誌を交換し，研究情報の交流を推進した。

誌 名	国 名
1 Australian Welding Research	オーストラリア
2 Revista Soldadura	アルゼンチン
3 Schweiss-& Prufung Technik	オーストリア
4 Reveu de la Soudure - Lastijdschrift	ベルギー
5 Leurotest Technical Bulletin	〃
6 Metalurgia	ブラジル
7 Revista da Soldagem	〃
8 Soldagem & Inspeccao	〃
9 Canadian Welder & Fabricater	カナダ
10 Zvaranie	チェコ
11 Welding News	〃
12 Hitsaustekniikka Svetsteknik	フィンランド
13 Soudage et Techniques Connexes	フランス
14 Bulletin Singanaletique	〃
15 Sciaky	〃
16 Schweissen und Schneiden	ドイツ
17 Schweissttechnik	〃
18 Wissenschaftliche Zeitschrift	〃

19	Indian Welding Journal	インド
20	Journal of the Association of Engineers	〃
21	Rivista Italiana della saldatura	イタリア
22	Korean Scientific Abstracts	韓国
23	大韓金属学会誌(Journal of KMM)	〃
24	大韓熔接学会誌	〃
25	Metals and Materials	〃
26	Korean Welding Society	〃
27	Electronic Materials Letters	〃
28	Lastechnik	オランダ
29	Przegląd Spawalnictwa	ポーランド
30	Biuletyn Instytutu Spawalnictwa	〃
31	Polish Engineering	〃
32	Technologia Qualidade	ポルトガル
33	Buletin IPI	ルーマニア
34	Serie de Metalurgia	〃
35	Sudura	〃
36	Revista de Metallurgia	スペイン
37	Revista de Soldadura	〃
38	Soldadura y Tecnologias de Union	〃
39	Svetsaren	スウェーデン
40	Schweisstechnik Soudure	スイス
41	Welding & Metal Fabrication	英国
42	Welding Review	〃
43	Metals Technology	〃
44	Welding International	〃
45	Welding Journal	米国
46	Welding Research Abroad	〃
47	WRC Bulletin	〃
48	CA Selects(Ceramic Materials)	〃
49	Avtomaticheskaya Svarka	ウクライナ
50	Strength of materials	〃
51	All - Union Monthly of Engineering Physics	〃
52	Zavaranie svarovani	スロベニア
53	Varilna Tehnika	〃
54	Metallic Materials	〃
55	Science in China	中国
56	地質学報	〃
57	金属学報	〃
58	鋼 鉄	〃
59	Transactions of the China Welding Institution	〃
60	冶金分析	〃
61	材料科学	〃
62	China Welding	〃
63	Singapore Welding Society Newsletter	シンガポール

II. 会 務 報 告

1. 第 76 回通常総会

日 時 平成 20 年 4 月 9 日 (水)

開会 午前 10 時 30 分 開会 午前 12 時

場 所 ハイアット・リージェンシー・オオサカ (大阪)

議決権を有する者：理事 20 名 (うち 11 名は評議員と兼任)

評議員 146 名

出 席 38 名 (理事 17 名, 評議員 31 名) (理事と代議員を兼任 10 名)

委任状 76 名 (理事 2 名, 評議員 76 名) (理事と代議員を兼任 2 名)

合 計 111 名 (総数 155 名)

監 事

出 席 牛尾誠夫

特別幹事 西本和俊

議 事

① 平成 19 年度事業及び会務報告の件 承認

② 平成 19 年度収支決算報告の件 承認

③ 監査報告 承認

④ 平成 20・21 年度理事・監事選任の件 承認

⑤ 平成 20 年度事業計画の件 承認

⑥ 平成 20 年度収支予算の件 承認

⑦ 平成 20・21 年度代議員の報告

⑧ 名誉員推薦

牛尾誠夫, 恩沢忠男, 入江宏定

⑨ 特別員推薦

松村 洋, 大石橋宏次, 荒木孝雄

⑩ 表彰

溶接学会業績賞

杓名宗春, 高橋康夫, 村川英一

平成 19 年度佐々木賞

浅井 知, 石川 忠

平成 19 年度溶接学会論文賞並びに論文奨励賞

溶接学会論文賞

山根 敏, 山本 光, 金子裕良, 大嶋健司

溶接学会論文奨励賞

陸 善平, 山本元道

平成 19 年度田中亀久人賞

恵良哲生, 上山智之, 森本慶樹, 益城浩司

溶接学会学術振興賞

豊貞雅宏, 池内建二, 大北 茂

妹島賞

菅 哲男, 長岡茂雄, 中野利彦, 末永和之

溶接学会研究発表賞

平成 19 年度春季全国大会

松下宗生, 道内真人, 二塚貴之, 大橋良司

平成 19 年度秋季全国大会

三谷欣也, 米島康弘, 真崎 邦崇, 西畑ひとみ,

高嶋康人, 岡崎 喜臣, 田代真一

溶接学会ベストオーサー賞

松井仁志, 田上 稔, 才田一幸・西本和俊,

白木原浩・廣田一博
溶接学会シンポジウム賞

赤田裕亮・巽裕章・山口拓人・廣瀬明夫，
守田俊章・井出英一，中野公介

溶接学会奨学賞

小畑潤平，竹澤大輔，高橋祐介，松岡範幸，
田中祐以，岡村有貴，鷺見信行，巽 裕章，
高橋謙悟，劉 忠杰，中嶋純也，川崎篤志，
邸 然鋒，藤井美保

溶接学会技術貢献賞

清水弘之，浜谷秀樹，山岡弘人，角 博幸，

⑪ 溶接学会フェロー認定

宮崎建雄，原田章二，菅 泰雄，稲垣正壽，
菅 哲男，西尾一政，小野守章，石川 忠

⑫ 溶接学会記念基金その他の寄付金の受入れ状況及び活用状況報告

⑬ 感謝状贈呈

東部支部（平成 19 年度秋季全国大会開催担当）殿

2. 理事会（定例 7 回）

本年度の主な議題・決議事項

(1) 溶接学会活性化について

学会の活性化に向けて，企画委員会を中心に，将来展望と活動目標を検討する活動を実施し，学会構成員の評価向上，溶接（高度）技術者教育，支部との連携のあり方，賛助会員へのサービスのあり方，などアクションプログラムの効果を引き続き検討するとともに，会勢増強，活動資金獲得に向けた活動の推進を図った。

(2) 財政改善について

逼迫した財政状態改善のために，人件費，事務費の節減，会誌印刷費のコスト低減など支出を引き締めるとともに，講習会，広告料など会費外収入の増加を図り逐次実行に移した。

(3) 会勢の拡張について

正員の増強，学生に対する啓発及びサービス活動の強化，そして財源の安定化と学会活動の浸透を図った。

(4) 特別研究活動の推進について

研究推進部会の提案に基づいて，特別研究会の設置及び活動の推進について審議した。特別研究会 3 件，アドホック研究会 1 件が活動した，特別研究会 2 件及びアドホック研究会が成果報告のシンポジウム開催を準備した。（前掲）

(5) 溶接連合講演会

本会，日本溶接協会，産報出版の合同企画にて，第 3 回溶接連合講演会を本会の平成 20 年度春季全国大会第 3 日目開催し，第 4 回実施に向けて準備した。

3. 業務委員会活動

3.1 企画委員会（平岡和雄委員長）

インターネットでさまざまな情報を獲得できる現在，今後，溶接学会が存在感を示して生き残るためには，学会メリットが誰にでも見えるようにする必要があるとの認識のもとに，「学会メリットの見える化・魅せる化の推進を通しての学会活性化と会勢拡大」を H20，21 年度活動目標とした。その実現に向けた具体的な方策として，短期的には「個人の積極的な学会活動参加」，「WES 特別級・1 級資格保有者の取り込み」を推進するとともに，中長期的には「溶接・接合技術の将来ビジョン」を

策定することにした。とりわけ，将来ビジョンの策定は，急速にグローバル化が進展した情勢を踏まえて，欧州など世界の各地域で活発に取り組まれている研究・技術戦略の策定とも関連し，我が国が今後も継続的に「ものづくり分野」の国際競争力を高めていくための道筋を描くことを趣旨としている。その基盤技術である溶接・接合技術の将来像・取り組むべき課題を産官学が一体となって検討し，明らかにすることで，学会の活性化，次世代溶接工学の研究者・技術者の育成，他分野からの研究者・技術者の参入を促進する。

20 年度においては溶接・接合分野ならびに関連するものづくり分野の最新情報・学術情報を発信する学会誌の内容を大幅に変更した。同時に会員へのアンケートを実施し，今後の紙面へのフィードバックを検討した。論文集については 19 年 1 月からスタートした WEB 化による論文掲載までの時間短縮のメリットが投稿者に認識されだした。溶接工学の啓蒙普及活動に関連して，企業各社に対して 2 回のアンケートを実施し，その結果を踏まえて，教育委員会主催の基礎講座と夏季大学を全面的に見直すことにした。すなわち，溶接接合技術・工学の体系を整理し，技術レベルとしての WES 2 級から WES 特別級に対応し，入門講座から中堅技術者講座，上級技術者講座へと再編することにした。また，会員へのサービスの一環として，論文集・学会誌・全国大会講演概要集をホームページにて公開するとともに，日本溶接情報センターとの HP 連携を進めた。研究委員会資料についても会員への公開のしかたを検討した。将来ビジョン策定と関連し，研究推進部会と連携して学会常置の 9 つの研究委員会に対して，技術ロードマップの検討を依頼した。

3.2 溶接情報化委員会（南二吉委員長）

年度内 1 回の委員会，2 回の科学技術振興機構（JST）電子ジャーナル業務課との連絡会，2 回の日本溶接協会（JWES）溶接情報センターとの連絡会，数回の E-mail 持ち回り会議開催し，本会の活動の情報化に関する以下のような諸検討を実施した。

(1) H20 年度から JST と国立情報学研究所電子図書館（Nii ELS）とで重複したジャーナル電子化を行わないことになったこと（国の施策）に伴い，JST 側へ本会情報の公共性，学術的重要性を認識要請し，以下のように電子情報発信することで JST と合意した。

・論文集：発刊後すぐに公開（会員，非会員とも無料）

Nii ELS での公開範囲：Vol.1 (1983)-Vol.24 (2006)

Journal@rchive (JST) での公開範囲：Vol.1 (1983)-Vol.19 (2001)

J-Stage (JST)での公開範囲：Vol.20 (2002)

・学会誌：発刊後 3 年後に公開（会員，非会員とも無料）

Nii ELS での公開範囲：創刊号 (1931)～Vol.77 (2008)

Journal@rchive(JST) での公開範囲：創刊号～Vol.74 (2005)

J-Stage (JST) での公開範囲：Vol.75 (2006)（本会での会員認証システム導入後（H21. 4 月以降）は，発行後，会員には認証システムを通して J-Stage で直ぐ公開）

・全国大会講演概要集：全国大会終了後すぐに公開（会員，非会員とも無料）

Nii ELS での公開範囲：第 1 集～第 83 集（2008）

J-Stage (JST) での公開範囲：第 73 集 (2003, 秋季)～

- (2) 本会での会員認証システムを H21 年 4 月開始目処に発足させることとした。認証システムの利用には、個人情報（会員番号、漢字・ローマ字氏名、E-mail アドレス）の本会への届出が必要となる。
- (3) JWES 溶接情報センターとの情報相互リンクについて協議を行い、H21 年 4 月を目処にホームページの相互リンクを開始することにした。溶接情報センターホームページ（HP）の利用にあたっては、本会の会員認証システムへの届出が必要。溶接情報センターで閲覧できる情報は、溶接技術教育シート、溶接・接合技術 Q&A、溶接・接合技術入門 e-Bbook、溶接技術データベース、抵抗スポット溶接テキスト、鋼材溶接性計算ツール、アーク溶接の各種動画などである。
- (4) 会員認証システムの発足、JWES 溶接情報センター HP との相互リンク開始に伴い、本会 HP をリニューアルした。
- (5) 国立国会図書館に収納している溶接学会誌、論文集の ISSN（国際標準逐次刊行物番号）の整備を行った。

3.3 編集委員会（中田一博委員長）

溶接学会誌及び溶接学会論文集の編集及び刊行を行った。論文集は WEB 論文集として発行した。溶接学会誌各号の記事に対する学会員モニターのアンケートを取り、学会誌の内容充実に努めた。溶接学会誌のニックネーム付与の是非およびニックネームに対する学会員モニターアンケートおよび一般公募を行い、取りまとめ結果を理事会に提出した。ベストオナー賞候補者 3 件を選考した。

国立情報学研究所（NII）の電子図書館サービス（NACSIS-ELIS）事業に引き続き参加し、溶接学会誌は創刊号からを対象として発行日から 3 年経過後に同サービスにて公開した。また溶接学会論文集は創刊号からを対象として発行直後から同サービスにて公開した。

科学技術情報発信・流通総合システム（J-Stage）に引き続き参加して、溶接学会論文集を発行直後から同サービスにて公開した。

英文誌 STWJ（Science and Technology of Welding and Joining）の共同編集に引き続き参加した。

3.4 論文査読・審査委員会（粉川博之委員長）

平成 20 年 6 月 27 日に年一回全委員が集まる定例委員会を開催し、平成 18 年度本格実施を始めインターネット利用による電子査読委員会がおおむね順調に進行しており、投稿論文査読開始時における査読者の選任およびその審議・承認手続きと投稿論文の査読及び掲載可否決定の審査をインターネット上で随時迅速に行えていることを確認した。本年度は、論文投稿から査読完了（受理日）までの期間が 6 ヶ月以内の論文が全論文の 95%以上、4 ヶ月以内の論文約 83%を達成した。最短のものでは 47 日で査読完了となり、査読期間短縮が定着してきた。

また、英文誌 STWJ（Science and Technology of Welding and Joining）の共同編集と STWJ-JWS collaboration 推薦投稿を実施し、年間 7 件の溶接学会論文を STWJ 誌へ推薦した。

なお、本年度 11 月開催の 8WS 発表論文の内、論文集への掲載希望論文（56 件）を 8WS 実行委員会・論文委員会と協力して査読審査し、8WS 特集を通常論文集の中に含めて刊行する予定で、現在進行中である。

3.5 全国大会運営委員会（高橋邦夫委員長）

- (1) 年度内 4 回の委員会を開催し、平成 20 年度春季・秋季全国大会および平成 21 年度春季・秋季全国大会の企画・運営について協議決定した。
- (2) 講演概要集第 82 集および第 83 集を編集発行した。
- (3) 平成 20 年度秋季および平成 21 年度春季全国大会プログラムを編成した。
- (4) 全国大会研究発表講演の「溶接学会研究発表賞」審査を平成 20 年度春季及び秋季大会にて実施した。
- (5) 科学技術情報発信・総合流通システム（J-Stage）を利用した、インターネットによる全国大会研究発表・原稿提出・J-Stage にて公開を実施した。
- (6) 全国大会をウエルディングショーと連携開催することについて協議し報告した。
- (7) 概要集の CD-ROM 化について協議し報告した。

3.6 溶接教育委員会（平田好則委員長）

- (1) 年度内 2 回の委員会を開催し、本会の普及・教育活動に関する課題について検討した。
- (2) 平成 20 年度溶接技術基礎講座を開催した。（前掲）
- (3) 平成 20 年度溶接工学夏季大学を開催した。（前掲）
- (4) 大阪府内の工業高校教員を対象とした溶接工学夏期講座を実施した。
- (5) IIW 第 XIV 委員会等と連絡し、各国と溶接教育について情報を交換した。
- (6) 日本溶接協会との連携による国際溶接学会（IIW）溶接技術者資格制度特認コースが 20 年 4 月よりスタートし、11 名の受験応募があった。プロフェッショナル・インタビュー、プロジェクトワーク、最終筆記試験を実施し、IWE 4 名、IWS 5 名がディプロマ資格を取得した。
- (7) 溶接学会各支部や研究委員会、日本溶接協会が企画・実施した講習会やセミナー、シンポジウムの IIW 履修ポイントについて、IIW 特認コース WG を通してアナウンスした。
- (8) 溶接技術者・溶接技能者の育成のための学協会と教育機関（大学・高専・工業高校）の連携について検討した。

3.7 国際交流委員会（村川英一委員長）

- (1) 国際交流の在り方、国際戦略について検討した。
- (2) 海外名誉員、推薦会員（Guest Member）について検討した。
- (3) 日米、日韓、及びヴェトナム等学術交流協定に基づいた協力事項を検討した。
- (4) 各国からの依頼事項、照会事項を処理した。
- (5) アジア溶接連盟（AWF）の日常活動及び総会に参加した。
- (6) 第 8 回国際シンポジウム（8WS）開催に協力した。

3.8 溶接用語委員会（池内建二委員長）

- (1) JIW 第 6 委員会と合同で IIW 第 VI 委員会の活動を支援した。
- (2) 日本溶接協会規格委員会、JIS 溶接用語改訂準備委員会の活動に協力した。
- (3) 溶接・接合用語辞典の発刊を検討した。

4. 若手会員の会（山本元道委員長）

4.1 若手会員ののためのフォーラム（共催：(財)溶接接合工学振興会）

(1) 春季全国大会フォーラム

主 題：アジア地域での国際交流活動（基調講演 2 件）
日 時：平成 20 年 4 月 9 日（水）14:50～16:20
場 所：ハイアット・リージェンシー・オオサカ（春季
全国大会開催会場）第 4 会場
参加者：約 50 名

(2) 秋季全国大会フォーラム

主 題：若手の研究ポスターセッションと交流会（ポス
ター発表 44 件，ポスター発表賞 3 件）
日 時：平成 20 年 9 月 11 日（水）18:00～19:30
場 所：北九州国際会議場イベントホール（秋季全国大
会開催会場）
参加者：約 70 名

4.2 若手会員ののための見学会・シンポジウム・セミナー

(1) 第 4 回日本・韓国若手溶接研究者合同シンポジウム

主 題：The 4th JWS - KWJS Young Researchers
Symposium（日韓で講演 5 件ずつ計 10 件）
日 時：平成 20 年 4 月 9 日（水）16:35～18:10
場 所：ハイアット・リージェンシー・オオサカ（春季
全国大会開催会場）第 4 会場
参加者：約 50 名

(2) 基礎セミナー（中国支部「溶接・接合工学学修会」との
共催）

主 題：メルパルク岡山（岡山県岡山市）
日 時：平成 20 年 8 月 27 日（水）～ 28 日（木）
9:30～16:40
参加者：61 名
講 師：大畑充（大阪大学），寺崎秀紀（大阪大学），
山本元道（広島大学），他中国支部 3 名

(3) 研究会・見学会（九州支部「溶接・接合工学学修会」との
共催）

場 所：鹿児島県工業技術センター（鹿児島県霧島市）
日 時：平成 21 年 3 月 17 日（火）13:00～17:30，
18 日（水）9:00～12:00
参加者：約 40 名

講 師：北村貴典（九州工業大学），津村卓也（大阪大学），
西川 宏（大阪大学），寺崎秀紀（大阪大学），
佐藤 裕（東北大学），川人洋介（大阪大学），
瀬知啓久（鹿児島県工業技術センター）

4.3 広報および情報交換

(1) 溶接学会誌「若手会員の会自由編集ページ」に，運営委
員会，イブニングフォーラム，シンポジウム等の案内・報
告を掲載した。

(2) ホームページに活動報告，行事案内等を掲載した。

(3) メーリングリストによる情報交換を促進した。（有効登録

者数約 200 名，E-mail 投稿数 約 40 通）

4.4 若手会員の会運営委員会（山本元道委員長）

計 2 回の運営委員会を開催し，活動方針と企画について審議
した。

(1) 第 38 回運営委員会

日 時：平成 20 年 4 月 9 日（水）11:50～13:00
場 所：ATC O's 棟 南館 6F B3 会議室
出 席：16 名（在籍 56 名）

(2) 第 39 回運営委員会

日 時：平成 20 年 9 月 11 日（木）11:50～13:00
場 所：北九州国際会議場（秋季全国大会開催会場）
出 席：17 名（在籍 56 名）

5. その他の諸会合

支部長会議	4
財務理事会	2
総務理事会	1
名誉員推薦審査委員会	1
特別員選考委員会	1
溶接学会貢献賞審査委員会	1
溶接学会業績賞審査委員会	1
佐々木賞審査委員会	1
溶接学会論文賞・溶接学会論文奨励賞審査委員会	1
田中亀久人賞審査委員会	1
溶接学会学術振興賞審査委員会	1
妹島賞審査委員会	1
溶接学会研究発表賞審査委員会	2
溶接学会シンポジウム賞審査委員会	2
溶接学会ベストオーサー賞	1
溶接学会技術貢献賞審査委員会	1
溶接学会フェロー選考委員会	1

6. 会 勢

会員数（平成 21 年 2 月末現在）

賛助員		団体員 (口数)	個人会員					個人会員
会員数	口 数		名誉員	特別員	推薦会員	正 員	学生員	合 計
382	949	41(41)	34	69	10	2,866	253	3,232

会員の移動

種 別	賛 助 員		正 員	学生員	団体員 (口数)
	会員数	口 数			
20年度初在籍数	380	950	2,925	208	44(49)
入 会	15	16	130	125	----
退 会	13	15	150	40	3 (8)
口 数 増	(2)	3	-----	-----	-----
変 更 減	(3)	5	-----	-----	-----
資 格 増	-----	-----			-----
変 更 減	-----	-----	* 4	31	-----
計	382	949	2,866	253	41(41)

*：特別員へ移行（4名）、正員35名を整理、学生員9名を整理